2. 問題別討論会（6 月 22 日）

②【テーマ】個別最適・協働的な学びの授業デザイン

15:10～17:10 第3室

コーディネータ：宮﨑　直哉（掛川市立西中学校）
提　案　者　　：山田　尚平（富山県黒部市立清明中学校）
伊東　和美（富山県射水市立大門中学校）
田口　貴彬（富山県立魚津高等学校）

個別最適・協働的な学びは広く一般に推奨される型や授業の進め方のモデルのようなものはあっても、現実の学校には様々な学級や生徒がおり、学級の実態や生徒の実態に応じて柔軟に変えていくことも必要になる。本討論会では複数の授業実践者からの個別最適・協働的な学びの実践事例をもとに、フロアの参加者も含めて意見交換し、個別最適・協働的な学びの方法や考え方について見つめ直す機会としたい。

山田　尚平：

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実はどのように実現可能なのか。「子どもを主語にした学び」を具現化すべく、中学校２年生の授業をデザインした。Dream Vacation についてのグループプレゼンテーション、海外スターへのファンレター、Peace Project といった様々なプロジェクト学習の中で、生徒それぞれの「学び方」を大切にした。今回は「海外スターへのファンレター」のプロジェクトを中心に、その実践内容と生徒の変容について紹介したい。

伊東　和美：

個別最適な学びと協働的な学びを実現するための ICT の効果的な活用について提案したい。個別最適な学びとして、生徒が自ら決定し、自己調整しながら学ぶための、デジタル教科書やデジタルドリルの活用を紹介する。また、協働的な学びとして、言語活動で生徒が互いの意見を共有し、学び合うための学習支援ソフトの活用を紹介する。ICT の活用を通して、生徒の学びがどう変わっているのか紹介したい。

田口　貴彬：

１人１台タブレットの普及により、一斉指導が主流の日本の教育現場で、個別学習が容易になった場面もある。県立学校教諭として私が取り組んでいる ICT を用いた学習の個性化の例を紹介したい。また、英語の授業でポスト・リーディング活動として広く取り入れられている「Retelling」活動を、「Literature Circle」活動に置き換え、より協同的な学びになるよう実践した。その内容を紹介したい。